

両親，とくに母親の性格と新生児の 心理・行動学的研究

若麻績 佳 樹（日本医科大学第2病院産婦人科）

研究目的

新生児の行動発達に母児間の心理のあり方が重視されているが、新生児期は未だ家庭環境が入らないため最も適した時期である。児の性格、行動発達が胎生期に母親の影響を受けるか否か未だあきらかだけでなく、もし少しでも影響を受けるとすれば、両親の性格がどのように児に伝わってゆくか調べ、妊娠時の生活様式のあり方を検討せんとするものである。

研究方法

出生後7日以内の新生児について、BrazeltonのBehavioral Scale 27項目中24項目について調べた。すなわちScale 1光に対する反応の漸減 2ガラガラに対する反応の漸減 4ピン刺激に対する反応の漸減 5方位反応—非生命的視覚刺激 6方位反応—非生命的聴覚刺激 7方位反応—生命的視覚刺激 8方位反応—生命的聴覚刺激 9方位反応—生命的視・聴覚刺激 10敏活さ 11全身的な筋緊張 12運動の成熟度 13坐位への引き起こし 14抱擁 15防衛運動 16干渉によるなだめ 17興奮の頂点 18状態向上の迅速性 19被刺激性 20活動性 21ふるえ 22検査中の驚愕の量 24状態の易変性 25自己鎮静の能力 26手を口へもっていく能力である。これらについて各々9点の尺度を検者3人でそれぞれ採点し、新生児の性質、行動発達、知的発育の程度を求めた。

他方児の両親には面接のうえ矢田部—ギルフォード性格テストを実施した。すなわち6類形性格特徴として情緒の安定度、社会的適応度、活動性、衝動性、内省度、主導権を調査し、さらに12の尺度分類として抑うつ性、気分の変化、劣等感、神経質、客観性、協調性、攻撃性、活動度、のんきさ、思想的内・外向、服従性支配性、社会的内・外向の検討を行なった。これらの成績は前述のBrazeltonのBehavior scoreと照らし

あわせて、母児相互間に密接な関係のあるものを求めた。

研究成績

母親の性格と児のBehaviorとの間に密接な関係がみられたものは432の組合せ中12組であった。

その結果は

- 1；児の光刺激で慣れの現象が起こり難いタイプは、母親の性格が活動的であり（表1）、社会的外向（表2）、主導的（表3）であった。
- 2；人の声による聴覚刺激で刺激の源を探そうとしないタイプは、母親の性格が非内省的であった。（表4）
- 3；人に対する視・聴覚刺激で刺激の源を探そうとしないタイプは、母親の性格が主導的であった。（表5）
- 4；alertの持続の短いタイプは、母親の性格が神経質でない。（表6）
- 5；なだめやすい児のタイプは、母親の性格が客観的であった。（表7）
- 6；興奮しやすいタイプは、母親の性格が非攻撃的であった。（表8）
- 7；静かな状態より活発な状態へ移行しやすいタイプは、母親の性格が非攻撃的であった。（表9）
- 8；驚愕の少ないタイプは、母の性格が劣等感が少ない。（表10）、又衝動的であった。（表11）
- 9；手を口の中へ入れないタイプは、母の性格は抑うつ性が少なかった。

考察・要約

胎生環境で受けた影響を心理・性格面から、とくに家庭環境に入る前の新生児期に検討した。この時期のうちに両親の性格と新生児の性格の関係

を求めた成績は乏しい。今回新たに Brazelton と矢田部-ギルフォード法の両面から独特な検討をこころみた。以上のような結果になったが、児の性格を現わしているものの中で、母児間の性格が似かよっていると思われるものは12組中2組であった。だがこれらの結果は母親の性格因子の

みしか考慮してませんので、今後は父親の性格を加味し、立体的な分析を行い、できればそれらを利用して胎児・新生児期における妊娠生活の有り方、及び育児になんらかの方向づけを試みたい。

表1.

Scale 1 光刺激に対する反応の漸減
(Response Decrement to Light)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 4	5 ~ 9	
活動的	34	13	47
非活動的	6	11	17
	40	24	64

$\chi^2 = 7.31$

Borderline 群4例

児の Behavioral Score 1~4 (10回刺激で反応が減少しない) の母親に活動的な性格を有する傾向がみられた。

表2.

Scale 1 光刺激に対する反応の漸減
(Response Decrement to Light)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 4	5 ~ 9	
社会的外向	35	13	48
社会的内向	8	12	20
	43	25	68

$\chi^2 = 6.57$

児の Behavioral Score 1~4 (10回刺激で反応が減少しない) の母親に社会的外向な性格を有する傾向がみられた。

表 3.

Scale 1 光刺激に対する反応の漸減 (Response Decrement to Light)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 5	6 ~ 9	
主 導 的	36	9	45
非 主 導 的	13	10	23
	49	19	68

$$\chi^2 = 4.16$$

児のBehavioral Score 1~5 (光に対する慣れの現象がみられにくい)の母親に主導的な性格を有する傾向がみられた。

表 4.

Scale 8 方位反応 — 生命的聴覚刺激 (Orientation—Animate—Auditory)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 4	5 ~ 9	
非 内 省 的	48	4	52
内 省 的	11	6	17
	59	10	69

$$\chi^2 = 4.94$$

児のBehavioral Score 1~4 (人の声による聴覚刺激反応で刺激の源を探そうとしない児)の母親に非内省的な性格を有する傾向がみられた。

表 5.

Scale 9 方位反応 — 生命的視・聴覚刺激 (Orientation—Animate—Visual and Auditory)

Behavioral Score 母の Y-G の性格	1 ~ 4	5 ~ 9	
主 導 的	41	3	44
非 主 導 的	15	6	21
	56	9	65

$$\chi^2 = 3.96$$

児のBehavioral Score 1~4 (人に対する視・聴覚刺激反応で刺激の源を探そうとしない児)の母親に主導的な性格を有する傾向がみられた。

表 6.

Scale 10 敏 活 さ (Alertness)

Behavioral Score 母の Y-G の性格	1 ~ 4	5 ~ 9	
神 經 質	13	15	28
神経質でない	27	11	38
	40	26	66

$$\chi^2 = 4.09$$

児のBehavioral Score 1~4 (敏活さの持続性の短い児)の母親に神経質でない傾向がみられた。

表 7.

Scale 16 干渉によるなだめ (Consolability with Intervention)

Behavioral Score 母の Y-G の性格	1 ~ 4	5 ~ 9	
客 観 的	31	9	40
主 観 的	14	14	28
	45	23	68

$$\chi^2 = 5.56$$

児のBehavioral Score 1~4 (なだめやすい児)の母親に客観的な性格を有する傾向がみられた。

表 8.

Scale 17 興奮の頂点 (Peak of Excitement)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 5	6 ~ 9	
攻 撃 的	15	14	29
非 攻 撃 的	11	28	39
	26	42	68

$$\chi^2 = 3.89$$

児のBehavioral Score 6~9 (興奮しやすい児)の母親は非攻撃的な性格を有する傾向がみられた。

表 9.

Scale 18 状態向上の迅速性 (Rapidity of Buildup)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 4	5 ~ 9	
攻 撃 的	18	11	29
非 攻 撃 的	13	26	39
	31	37	68

$$\chi^2 = 5.53$$

児のBehavioral Score 5~9 (静かな状態より活発な状態へ移行しやすい児)の母親に非攻撃的な性格を有する傾向が見られた。

表 10.

Scale 22 検査中の驚愕の量 (Amount of Startle During Examination)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 4	5 ~ 9	
劣等感大	13	6	15
劣等感小	46	2	48
	59	8	67

$$\chi^2 = 5.767$$

児のBehavioral Score 1~4 (検査中moroを含む3つ以内の驚愕の児)の母親に劣等感が少ない性格を有する傾向。

表 11.

Scale 22 検査中の驚愕の量 (Amount of Startle During Examination)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 4	5 ~ 9	
衝動的	47	3	50
非衝動的	12	5	17
	59	8	67

$$\chi^2 = 4.57$$

児の Behavioral Score 1~4 (検査中moroを含む3つ以内の驚愕の児)の母親に衝撃的な性格を有する傾向。
物

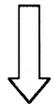
表 12.

Scale 26 手を口へもっていく能力 (Hand to Mouth Facility)

母の Y-G の性格 \ Behavioral Score	1 ~ 5	6 ~ 9	
抑うつ性大	3	8	11
抑うつ性小	37	19	56
	40	27	67

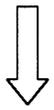
$$\chi^2 = 4.25$$

児の Behavioral Score 1~5 (手を口の中に入れない児)の母親に抑うつ性が少ない性格を有する傾向。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



考察・要約

胎生環境で受けた影響を心理・性格面から、とくに家庭環境に入る前の新生児期に検討した。この時期のうちに両親の性格と新生児の性格の関係を求めた成績は乏しい。今回新たに Braze1ton と矢田部一ギルフォード法の両面から独特な検討をこころみた。以上のような結果になったが、児の性格を現わしているものの中で、母児間の性格が似かよっていると思われるものは12組中2組であった。だがこれらの結果は母親の性格因子のみしか考慮してませんので、今後は父親の性格を加味し、立体的な分析を行い、できればそれらを利用して胎児・新生児期における妊娠生活の有り方、及び育児になんらかの方向づけを試みたい。